

県鳥(イヌワシ)保護調査報告書

1985

石川県白山自然保護センター

刊行にあたって

私達のすむ郷土は、全国的にみても自然の豊かなところですが、とりわけ白山は、動植物の豊庫としてよく知られています。その白山にすむ留鳥の中で、最も大きく力強いのがイヌワシです。

昭和40年に躍進する石川のシンボルとして県鳥に制定されて以来、何度か話題に取り上げられ、県民の皆様にも親しまれてきました。しかしながら全国的にも数が少なく、国の天然記念物や特殊鳥類に指定され保護されている鳥でありながら、その生息の実態は長い間ほとんど知られていませんでした。この鳥の県内での分布や数、行動圏の大きさ、繁殖習性などを調べ、その実態を明らかにして保護に役立てるため、県では昭和52年度より県鳥保護調査事業として取り組んできました。営巣期が積雪の多い冬期に始まり、生息場所への人間の立ち入りに極めて敏感なイヌワシですから、調査は困難を極めました。多くの方々の協力を得ることができ、ここに報告書としてとりまとめることができました。幸い、県内には白山を中心とする山地に広く分布していることがわかり、毎年どこかの営巣地で雛の巣立ちが確認されています。貴重なこの鳥が、いつまでも白山の自然の中に生き続けられるよう、今後とも見守っていかねばなりません。

この報告書が、イヌワシがどのような鳥であるのかの理解を深め、その保護に関心をもっていただく手助けになれば幸いです。

昭和60年3月

石川県知事 中西陽一

は　じ　め　に

翼を広げると2mに達するイヌワシは、生息地が急峻な山岳地帯であり、人間活動には敏感な上、数が少ないことから、全国的にはあまり知られていない鳥である。昭和40年5月には天然記念物に、また昭和47年6月には特殊鳥類にそれぞれ指定され全国的に保護の対象にありながら、開発による生息適地の減少や密猟などにより絶滅の危険性もあり、生息が危ぶまれている鳥の一つである。

石川県内では、昭和40年1月1日に県鳥に制定されたが、白山に生息することが知られていたものの、具体的な場所や数、その生活についてはほとんど知られていなかった。そこで県では、イヌワシの県内での分布、生息環境、行動圏の大きさ、繁殖習性、餌の種類など、この鳥の生態全般にわたる調査を開始し、生息現況を把握することにより保護に役立てることにした。

この報告書は、昭和52年から昭和59年までの調査で判明した県内でのイヌワシの生態についてまとめたものである。調査が進むにつれ、イヌワシの生息環境が山岳地帯の急峻な地形のあるところを中心としていることがわかり、また積雪の多い時期に営巣しているなどのため、予定していた調査内容には必ずしも十分に行なえなかったものもある。また卵のふ化率や雛の巣立ち数など繁殖率にかかわるものなど、長年の調査の積み重ねを必要とするものも多く、調査は今後も継続して行なっていく予定である。

なお、この報告をまとめるに際しては、県民のみなさんに、調査でわかったイヌワシに関する多くのことがらを知っていただくことを目的とするのはもちろんであるが、一方で定住性が強く、人の接近に極めて神経質なこの鳥の保護のために、記載に関しては次の点に配慮したので、不明な部分のあることをお許しいただきたい。すなわち生息している場所の詳細な地名、特に営巣地に関する地名、標高等は記載せず、具体的な場所がわからないようにした。

またこの報告書は、今までに石川県白山自然保護センター研究報告第6集、同第8集、同第10集、白山の自然誌4「イヌワシの生態」などで発表したものに追加、修正をしてまとめたものである。



写真1 巢内の親鳥（♀）と餌のアオダイショウをふみつける雛（1983. 5. 13）

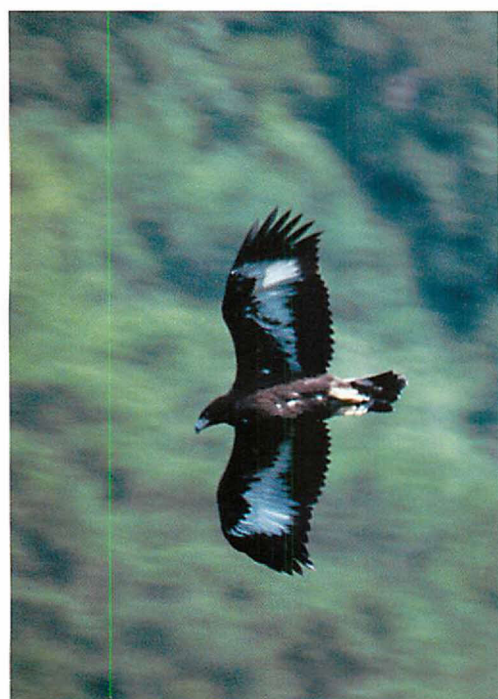


写真2 巣立ち後9日目の幼鳥（1983. 6. 15）



写真3 巣立ちの翌日林の中で休む幼鳥
(1980. 5. 31)



写真4 ヒノキの葉, ススキなどの
敷かれた巣に産まれた卵
(1983. 3. 11)



写真5 孵化後7日
~10日の雛, 手前は餌
のノウサギの毛
(1983. 4. 5)



写真6 孵化後約40日の雛
(1983. 5. 4)



写真7 親から口移して給餌される雛
(1983. 5. 4)



写真8 両親2羽で巣にいることは稀であった
左が♀ (1983. 5. 6)



写真9 尾を上げて谷めがけて脱糞する
(1983. 5. 13)



写真10 日中の行動の中では羽繕いの時間が最も長い
(1980. 5. 24)



写真11 育雛後期の雛はキョツ、キョツまたは
キャツ、キャツと聞こえる声で鳴く
(1980. 5. 24)



写真12 巣立ちが近づくと連続して羽ばたきを行ない、跳び上がることも多い
(1980. 5. 24)

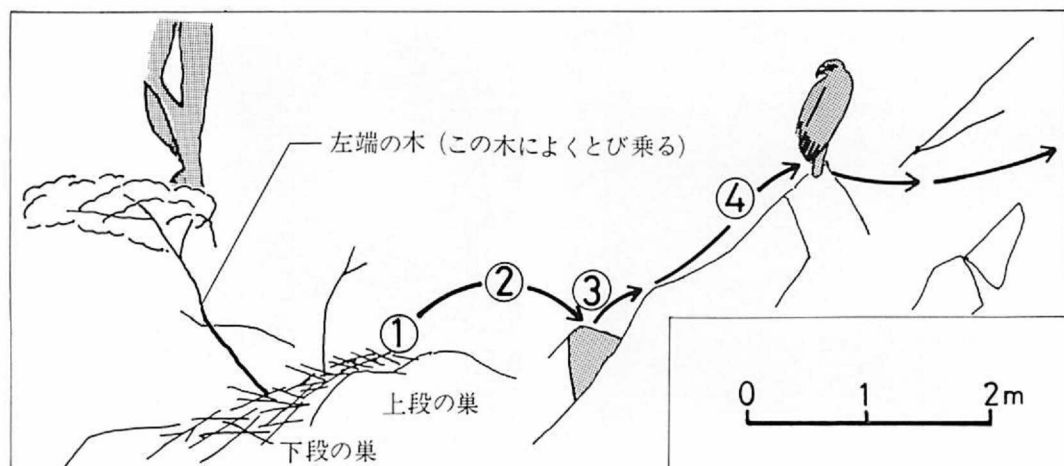


写真13 巣の全景と巣立っていく雛, この後さらに右上方へ移動して巣から約10 m離れた場所の木の上から, 谷めがけて18時26分に巣立っていく (1980. 5. 30)



写真14 写真13の①の位置, しばらくの間, 跳ぶ決心がつかない (15時19分30秒)



写真15 写真13の②の位置, 跳んだ瞬間 (15時23分31秒)



写真16 写真13の③の位置，前方のようすをうかがっている（15時26分00秒）



写真17 写真13の④の位置，羽ばたきながら移動する（15時26分10秒）



写真18 ベリット（口からはき出された不消化物）

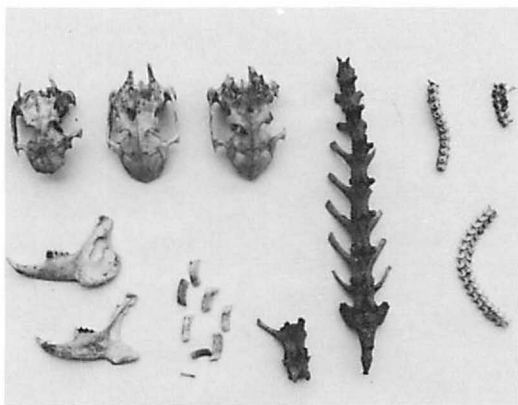


写真19 巣に残されていたノウサギとヘビの骨



写真20 若鳥♂推定2才（1981. 1. 11）



写真21 成鳥♀（1983. 6. 8）

目 次

イヌワシの分布及び生息環境

I 調査方法	1
II アンケート調査による生息状況	1
III 分布	4
IV 生息環境	4
V 営巣地	6
VI 捕獲及び保護例	7

白山地域におけるイヌワシの行動圏

I 調査地及び調査方法	11
II 行動圏の面積	11
III 行動圏の構造	14
IV 生息地と個体数	14

白山地域のイヌワシの育雛後期の行動

I 巣及び調査方法	15
II 親鳥の行動	15
III 雛の行動	25
IV 雛の巣立ち	39

文 献	48
-----	----